

## 「教育の原点をもとめて」－文化の継承と発展－

### －昭和62年度特別展について－

館長 久住 彰 夫

当館は、昭和46年に県政百年記念事業の一環として設立され本年で17年目を迎えました。その間、常設展の拡充に努めるのは勿論であります。毎年全国各地の博物館等の賛助も受けながら概ね2つのテーマ展と特別展を開催し、来館者の期待にこたえてまいりました。

そして、本年度の特別展は、「教育の原点をもとめて」をテーマに、10月24日から11月23日までの1ヶ月間、開催することになりました。

これまでの特別展がどちらかといえば視覚に訴える資料を中心とした展示で構成されていたのに比べ、今回は若干趣を異にし、人間の心の問題がからむだけに資料選択や理論構成が難しいと予想される教育の世界を取り上げ企画しました。

近年、我が国の教育問題については各分野で種々論じられており、国においても21世紀を目指した教育改革の実現に向けて、臨時教育審議会を設置し、3か年に及ぶ審議の過程を経て去る8月7日最終答申がなされたところであります。

我が国で教育問題が論じられるとき、ともすれば明治以降の公教育、学校教育の問題が重視され、中でも戦後から現在に至るまでの教育環境や、指導のあり方がとりざたされております。しかし広くとらえれば、教育は先人の発見・体得した技術・技能や文化遺産を次の世代に継承するとともに、未来を担う若い世代を育てることを基本的な使命とする営みで、太古から現在まで生成発展してきた人間の歴史の本質にかかわるものであると考えられます。

そこで、歴史博物館として設立され、原始、古代から中世、近世に至る資料を収集、展示する本館として、今回は近世以前のさまざまな教育的営為に目を向け、単に知育・徳育や、その制度のみでなく、人間の生存と直接かかわる面からも、その歴史をとらえてみようと考えているところであります。

今回の展示は(1)原始・古代・中世、(2)共同体における教育、(3)職人教育、(4)家の教育、(5)近世教育の諸相という内容のもとに、歴史資料を構成して教育の様々な要素や、側面に触れてみたいと思っています。

殊に技術継承の問題に関し絵巻物類にみる職人修業の姿として、重要文化財の石山寺縁起、菅田宗庵縁起や、職人尽絵屏風など見ごたえある資料の展示を予定しています。また若者組に見られる生活教育や、寺子屋などの庶民教育から、本居宣長の学問と教育などに至るまで、幅広い展示に心がけ、それぞれ日頃、見る機会の少ない貴重な資料を集めたつもりです。

これらの展示をとおして、昨今各方面でとりざたされている教育問題に一石を投ずることができれば望外の幸せと考えております。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、出陳を御快諾いただきました所蔵者の方々をはじめ、御協力を賜りました関係各位に心からお礼申し上げます。



鈴屋円居の図 松阪・本居宣長記念館蔵

昭和62年度特別展

# 「教育の原点をもとめて」

—文化の継承と発展—

10. 24 ~ 11. 23

## 文化の継承と教育

人類の歴史の中で、教育の問題ほど、古くて新しい問題はない。およそ人類の歴史が始まった時から、この問題は人類全体のものとして、極めて重要な問題であったと考えられるのである。それは言い換えるならば、人類の形成そのものが、文化の形成と継承の直接の結果である以上、教育問題と人類の誕生は、まさに鶏と卵の関係にあると言わなければならない。原人が叩いて割った石の割れ口を、刃物として使用するという簡単な作業も、チンパンジーにはまねのできない高度な内容をもっているのである。石を割るにしても、ただ叩けば割れるものではないし、割れさえすれば刃物として使用できるものでもない。石を刃物に作るためには、割れ口が刃物として使用できる石質をもった石材の選択、刃の角度を作り出すための打点や打角の選定、その作業に必要なハンマーの準備など、個人の能力では困難な、集団的に蓄積された豊富な経験と知識が要求されるのである。一つの発見が共通の認識となり、蓄積された経験が次の世代に継承されるという行為が、文化の形成にとって不可欠の要件なのである。

今日の複雑化した社会の組織構成と、発展分化した諸科学の実態が、日常的な市民生活にとって、しばしば無縁なものに見えようとも、文化こそ人間の生活の様式を規定し、



重文 職人尺絵屏風 川越・喜多院蔵

人々の生活を支える基盤を構成するものなのである。

人類の誕生と共に形成された我々の文化は、その本質において生活のための技術であり、生き抜くためには習得せざるを得ない最小限の術すらも、文化を離れて存在するものではない。また、これまでの歴史のなかで、優れた文学が、あるいは先進的な科学が、その時代に象徴する文化の精華として語られたとしても、その時代、その地域の人々が生活の中で培った文化を離れて存在したものではなかった。

人間の生活が特有の文化を持つことは、人類が他の動物と区別される大きな特質であるが、それは人類の生活が、当初から他の動物の生活に比べて、極めて複雑に組織された労働によって支えられていたことの現れであった。

自然界に在って、強い牙も鋭い爪も持たない人類が、今日まで生き続け、発展してきたことは、文化が動物の牙や爪よりも、更に有力な力であったことを示している。今では人類の文化は、世界を破滅させる原水爆戦争を起こす力も、また起こさせない力さえも持っているのである。

人間が原始生活を営んでいたころから、集団の生活を維持し、集団自体の再生産をはかることは、当然、人類特有の文化を継承し発展させることと不可分の問題であったが、それは、とりもおさず教育が人類の生存とその未来のために重要な鍵となるものであることを物語っている。

人間に限らず、動物の世界でも、子育ての時期には一定の教育は存在する。雛鳥の巣立ちにあたって、羽ばたきを教える親鳥の姿が見られるし、子猫にねずみを捕る意識を植え付けるのも親猫の教育と言えよう。しかし、そうした動物の生活に比べて、人類の文化は初めから、はるかに高度な内容を示していたが、そのうえ時代の進行とともに発達した文化は、これに対応する教育に、当然、多様で一層大きな課題の達成を求めている。そうした、時代とともに変遷する問題点に対応するため、この展覧会では、原始古代、中世、近世とおおまかに時代を分けて構成した。

文化が、基本的に日常生活の上での生活技術と生活様式に根ざすものであることから、教育を高度な知的教育の問題におい小化することのないように配慮している。それは



重文 一掃百態図 渡辺崋山筆 田原町教育委員会蔵



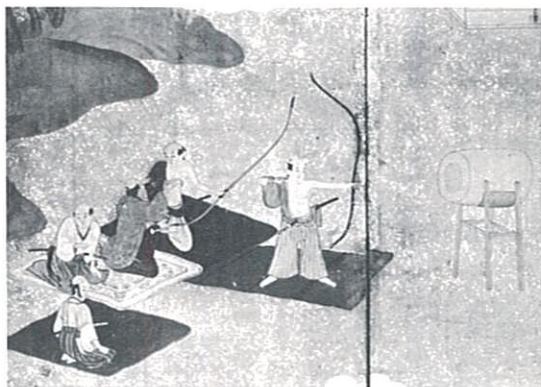
言い換えるならば、人間生活の全面的な発展的継承こそ教育の課題であるという認識に基づくからである。そうした意味から時代的な区分とは別に、ギルドにおける職人技術の伝習をはじめ、特殊な技術の継承を大きく採り上げた。

永い歴史の流れのなかで、大きく変貌を重ねた社会構成は、教育の内容だけでなく形態の上にも大きな変化を生んでいる。

人類がようやく活動を開始した頃から、数百万年の間、子弟の教育は集団を形成する群れの生活にとって、日常生活を維持する上で直接に集団全体の死活にかかわる問題であったろう。原始共同体の組織が明確な姿を示す時代になれば、それは共同体の盛衰を左右するものであったはずである。ごく最近までそうであったように、子供は親たちの仕事を手伝う「手伝い」を通じて技術や、知識を身につけてきたが、それは決して単なる教育ではない。手伝い自体が集団全体にとって、重要な労働力となっていたのであり、教育は労働を通じて行われていた。集団が分解して、個々の家族が自立する以前の社会では、子供の教育は、当然、集団全体の問題であった。

原始共同体が解体すると、主要な教育の場は個々の家庭に移っていくが、それでも総てが家庭に委ねられていた訳ではない。地域社会から孤立していた一部の豪農の家庭などを除けば、日常生活にかかわる教育の点では、なお多くの部分が村落共同体に残されていた。この共同体教育が最終的に解体を始めるのは、昭和三十年代に入ってからであり、今日の教育が直面している困難の多くの部分の内には、この共同体教育の欠落に起因すると考えられるものが見られる。

村落共同体で行われていた教育は、草刈りなど日常生活の上で各家庭の仕事の手伝いが、集落全体の子供達に共通する作業として共同体規模に拡大されている場合もあれば、共同体の教育組織として組織された子供組、若者組の活動として行われていたものもあった。地域社会全体で取り組んだそうした青少年教育は、飲酒や男女の問題など、現在



士農工商風俗図屏風 サントリー美術館蔵

の倫理感からみてかならずしも聖人君子を育てるものではなかったが、村八分的な制裁を背景にして共同体の維持にふさわしくない非行の多くを防止してきた。これらの組織は、やがて地域の青年団、消防団などとして継承されていたが、一方では村落共同体の解体の進行と、他方では組織の性格が共同体的な自治組織から遊離することによって、しだいにその活力をうしなっていた。

今回の展覧会で、特に共同体の教育のコーナーを設けたのは、かつては教育の場の中心であった地域の共同体の役割と、それが欠落した今日の社会に生じている問題点の所在にスポットの一つを当てるためである。

共同体の解体は、いやおうなく教育の主要な場を各家庭に移すこととなった。しかし、歴史的にみれば、家庭教育の展開は明らかに階層性を持って現れる。一般民衆の生活は、弱められたとはいえ共同体的な遺制のもとで続けられていた中で、古代の貴族、中世、近世の武士、豪商、豪農などの家庭では、家庭教育が重視され、実行されていた。

その意味では、最終的に共同体の分解した今日の日本の社会では、総ての家庭で家庭教育の必要性が高まっていると言えよう。

人類の歴史は、その文化の発展とともに継承すべき内容を増大させ、高度化させて、教育のための専門の機関を必要とするに至った。その意味では、少なくとも歴史的に見る限り、学校教育は家庭や共同体で行うことのできない高度の知的教育を行う機関として設けられたものである。その性格は、今日もなお大きくは変わっていないと言えよう。

しかし、学校教育の目的、つまり誰が、何のために、どのような教育を進めたのかと言うことについては、歴史的に大きく変動している。奈良時代に都に設置された大学は、律令国家が、国家の根幹である貴族層の後継者に、律令制の先進国であった唐風の教養を身につけさせて、律令制度の一層の進展を図るものであった。

歴史的に変動するそうした問題については、過去の事実をもって今日を論ずることはできない。それはまさに今日の課題なのである。



農業図絵 個人蔵

# 主な出品物

- 国 宝
- ◎重要文化財
- 県指定重要文化財

- (1) 原始・古代における生活技術資料ならびに文化資料
- ・石器の制作技術 瀬戸内技法石核・石片 岡山県立博物館
  - ・墨書土器ならびに刻銘土器
    - 墨書土器 奈良国立文化財研究所
    - 馬評銘須恵器 岡山県立博物館
  - ・習書木簡 平城宮出土 奈良国立文化財研究所
- (2) 中世における教育関係資料
- ・金沢文庫関係
    - ◎源氏物語〔金沢文庫本〕 名古屋市立蓬左文庫
    - ◎続日本紀〔 〃 〕 〃
    - ◎齐民要術〔 〃 〕 〃
    - ◎侍中群要〔 〃 〕 〃
    - ◎太平聖恵方〔 〃 〕 〃
    - 金沢貞顕書状・長井貞秀書状 神奈川県立金沢文庫
  - ・足利学校関係
    - 宋刊本文選〔金沢文庫本〕(レプリカ) 足利学校遺蹟図書館
    - 宋版礼記正義(レプリカ) 〃
    - 足利学校門額(レプリカ) 栃木県立博物館
- (3) 村落共同体における教育関係資料
- 堂頭日記(おとう板書) 神戸市北区淡河町南僧尾区 個人
  - 農業図絵 個人
  - 絵馬(四季農耕図) 兵庫県・香寺民俗資料館
  - 知多郡乙川村向山若者條目写 愛知県半田市向山
  - 乙川八幡社祭礼絵図 愛知県半田市乙川八幡社
  - 笠岡港力石 笠岡市教育委員会
- (4) 職人教育資料
- ・絵画にみる職人修業の姿
    - ◎石山寺縁起 大津・石山寺
    - ◎菅田宗庵縁起 羽曳野・菅田八幡宮
    - 三十二番職人歌合 個人
    - ◎職人尺絵屏風 川越・喜多院
    - ◎名古屋城旧本丸御殿障壁画 対面所上段之間付書院
    - 障子腰貼付風俗図 名古屋城管理事務所
    - 土農工商風俗図屏風 サントリー美術館
  - ・各種の秘伝書ならびに差図
    - 大工柏木家秘伝書 神戸・竹中大工道具館
    - 刀鍛冶秘伝書 刀剣博物館
- (5) 家庭教育資料
- ・武家家訓
    - 多胡辰敬 家訓 ほか 内閣文庫
  - ・商家家訓
    - 住友家関係「文殊院旨意書」ほか 京都・住友史料館

備中平川家文書・美作徳山家文書

岡山大学附属図書館

- ・文人家訓
  - 教訓図(子孫へ序) 円山応挙筆 ほか 個人
- ・農書類
  - 徳山敬猛「農業子孫養育草」 ほか 岡山大学附属図書館
- (6) 近世における教育施設関係資料
  - ・藩校関係資料
    - 閑谷学校関係資料 岡山県青少年教育センター閑谷学校
    - 〃 岡山大学附属図書館池田家文庫
    - 岡山藩藩校関係資料 〃
    - 足守藩藩校関係資料 足守文庫
  - ・寺子屋関係資料
    - 寺子屋机(師匠用) 個人
    - 寺子屋教科書 〃
    - ◎「一掃百態図」 渡辺華山筆 愛知県・田原町教育委員会
  - ・私塾関係資料
    - ◎本居宣長関係資料 松阪・本居宣長記念館
    - 業合大枝関係資料 邑久・豊原北島神社
    - 菅茶山(廉塾)関係資料 個人
    - 興譲館関係資料 興譲館高等学校
    - 葛原勾当関係資料 個人
  - ・画塾教育資料
    - 沖一峨関係資料 個人
    - 木挽町狩野派公用日記 東京国立博物館
    - 狩野流鬚紙・印可状・絵具箱 福岡県立美術館
    - 探幽縮図 個人
  - ・絵馬・算額
    - 絵馬 裁縫仕立師弟図 高梁・八幡神社
    - 算額(小野以正一門奉納) 吉備津神社ほか
    - 小野光右衛門関係資料 金光図書館ほか

## 記念講演会

日時 11月7日(土) 13:30~15:30  
 場所 岡山県立博物館講堂  
 講師 東京大学史料編纂所助教授  
 黒田 日出男  
 演題 「絵巻物にみる中世の教育」

## 岡山県立博物館だより No.29

発行日 昭和62年10月1日  
 発行者 岡山県立博物館  
 館長 久住彰夫  
 岡山市後楽園 1-5  
 ☎(岡山) 72-1149